

報告事項 へ

居場所について考えるまちなかワークショップの開催について

居場所について考えるまちなかワークショップの開催について、別紙のとおり報告します。

令和2年3月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

居場所について考えるまちなかワークショップの開催について

令和2年3月20日

図 書 館

図書館が様々な背景を持つ人の居場所になるために、どのような取り組みを行っていかばよいかを、世代や立場を越えて考えるワークショップを開催しました。

参加者からは「人」を中心に据えたアイデアが多く出され、図書館が本を持つコミュニティの中心になることが期待されていました。

1 ワークショップについて

(1) 概要

	第1回	第2回	第3回
日時	12月7日(土)	1月18日(土)	2月27日(木)
会場	岩美町立図書館	境港市保健相談センター	隼Lab.
共催	岩美町立図書館	境港市教育委員会	八頭町立図書館
話題提供 プレゼン レーター	田中泰子氏 (フリーライター・ TACOBUNE 管理人)	灘英樹氏 (境港市建設部次長 工学博士)	諸岡若葉氏 (株式会社シーセブン ハヤブサ)
内容例 八頭町 実施分	・趣旨説明(15分) ・先進的に居場所づくりに取り組む図書館の紹介(20分) ・プレゼンターによる取り組みの紹介(65分) ・図書館の活用法について考えるグループワークショップ(70分)		
参加人数 (合計)	39名	49名	35名
	123名		
参加者 所属等	・岩美町立図書館 ・高等学校図書館 ・公民館(岩美町) ・みんなを語る会 ・県社会教育課 ・岩美高校生 ・岩美町立図書館協議会 ・地域おこし協力隊 ほか	・境港市民図書館 ・高等学校図書館 ・公民館(境港市) ・教育委員会 (境港市・松江市) ・大学生、高校生、小学生 ・おはなし会関係者 ・市議会議員 ・書店 ・地域おこし協力隊 ほか	・八頭町立図書館 ・小・中学校図書館 ・公民館(八頭町・若桜町) ・教育委員会(八頭町) ・読み聞かせボランティア ・人権啓発センター ・八頭町福祉課 ・鳥取県社会生活自立支援 センター ・鳥取県いじめ・不登校総合 対策センター ほか

(2) ワークショップで出た図書館が居場所になるためのアイデア

- ・人が集うコミュニティの核として図書館を捉えなおすことが必要。
- ・放課後に子どもたちに来てほしい。宿題教室などを実施する滞在型図書館に。
- ・地域に住んでいる人の話が聴ける場所に。
- ・住民が自分を表現できる参加型の企画を開催してはどうか。

- ・子どもがはしゃいでも赤ちゃんが泣いてもよい静かにしなくてもよい空間を。
- ・外国の方との共生社会推進の場所になってほしい。(高校生からのアイデア)
- ・世代や立場を超えた交流ができる場所であってほしい。
- ・不登校、引きこもりの人たちの居場所に活用されたら。
- ・観光客が情報を収集したり一息つけたりする場所に。
- ・なだばた(漁師さんが集まる場所)のように日常的に人が集う図書館。

(3) 参加者からの感想

- ・司書の人以外のアイデアはこれからの図書館を作っていく上で大切だ。
- ・この場には来られない人たち(子ども・高齢者・障がいのある方・図書館に興味のない人など)の意見も聞かないといけない。出かけて意見は集める。
- ・ふだん色々な方の意見を聞いたり考えたり発表する機会がないので、新鮮で楽しい時間だった。身近になった図書館をこれから利用したい。
- ・人を集めて色々な意見を聞くことは大切だと思う。高校生など多世代の方と図書館について話せてよかった。



(境港市)



(八頭町)



(岩美町)



(ワークショップで作成されたアイデアマップ)

2 来年度に向けて

- ・学校図書館との連携を進め、学校内での居場所づくりを進めると共に、児童・生徒の公共図書館利用につなげていく。
- ・県立図書館を居場所として活用するため研修室の開放を検討している。